



日本高等教育評価機構評価充実協議会
平成27年7月7日

事例報告：福井工業大学

平成26年度認証評価を受審して

福井工業大学
学長 森島 洋太郎





福井工業大学の概要

(数字はいずれも平成27年5月1日現在)

- 設置者： 学校法人金井学園
- 理事長： 金井 兼
- 学 長： 森島 洋太郎
- 開 学： 昭和40(1965)年 ※本年開学50周年
- 所在地： 福井県福井市（福井キャンパス）
あわら市（あわらキャンパス）
- 教員数： 専任 96人、非常勤 66人
- 職員数： 80人(内、嘱託職員9人)
- 学生数： 学部 2, 124人(女子学生200人、留学生63人)
大学院 32人(女子学生 5人、留学生2人)





金井学園の建学の精神

金井
連学の精神

悠久なる日本民族の歴史と

伝統とに根ざした愛国心を培い、

節義を重んずる人格の育成、

科学技術の研鑽に努め、以て

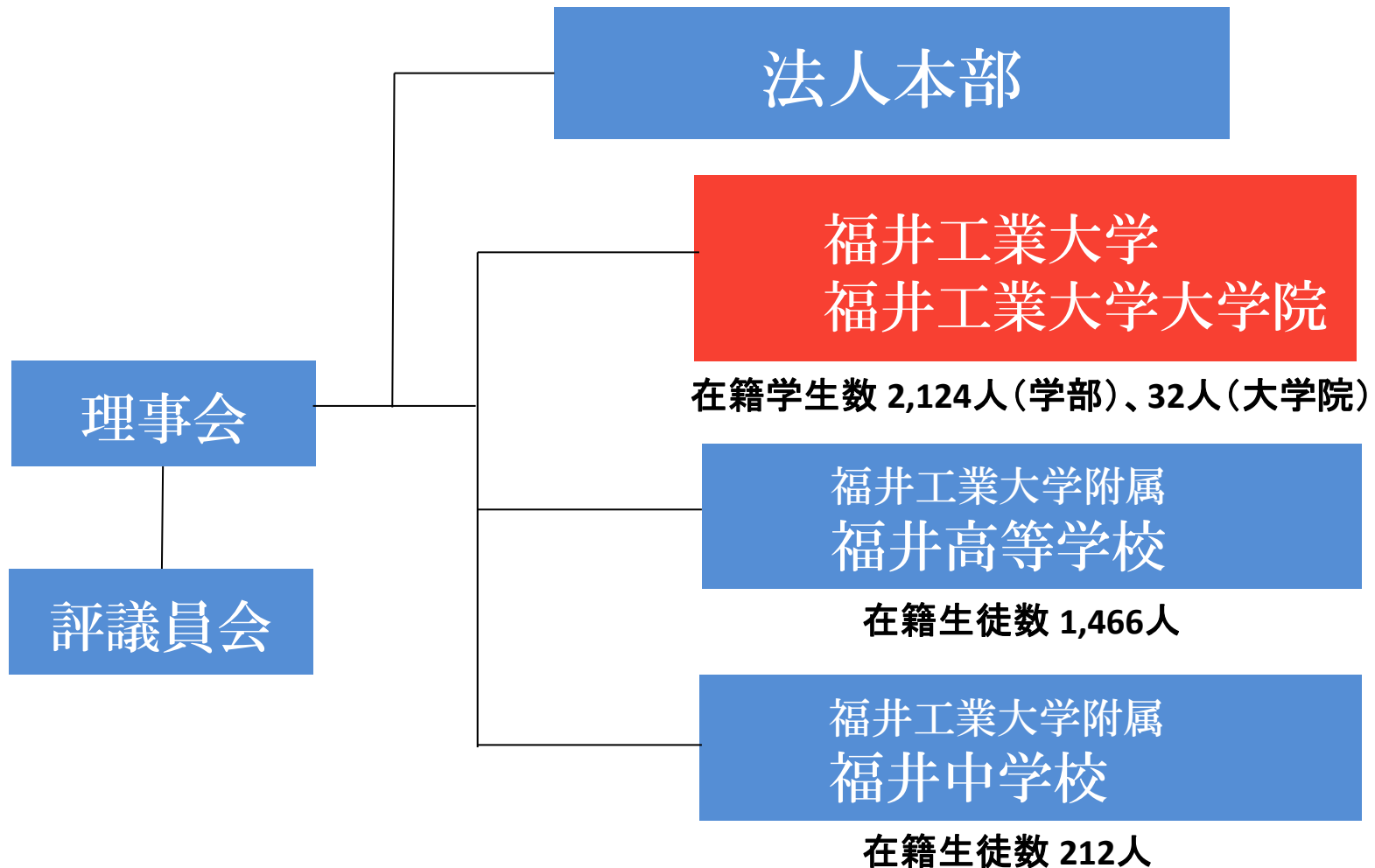
人類社会の福祉に貢献する。

金井連学





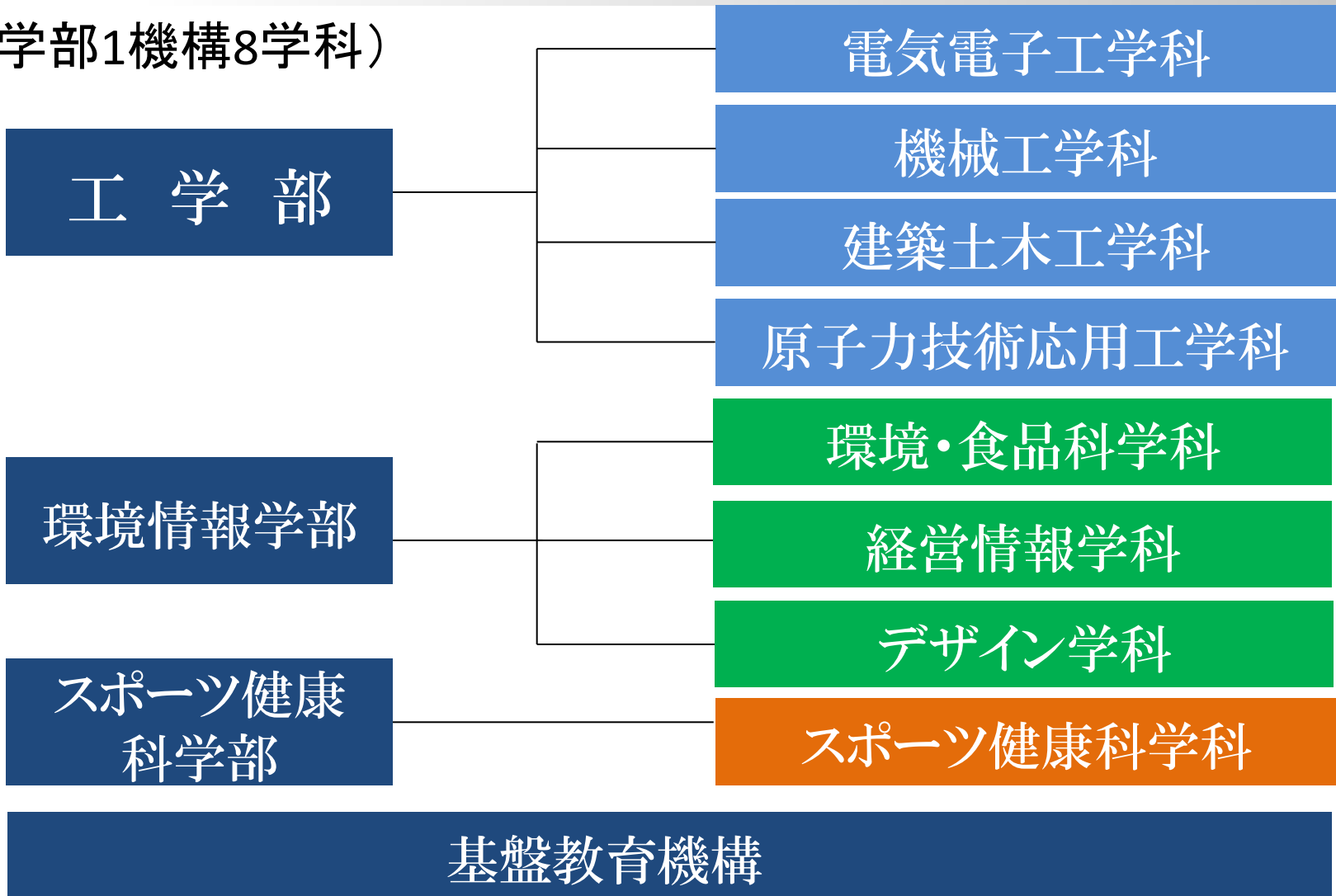
学校法人金井学園が設置する学校





福井工業大学の学部・学科構成

(3学部1機構8学科)

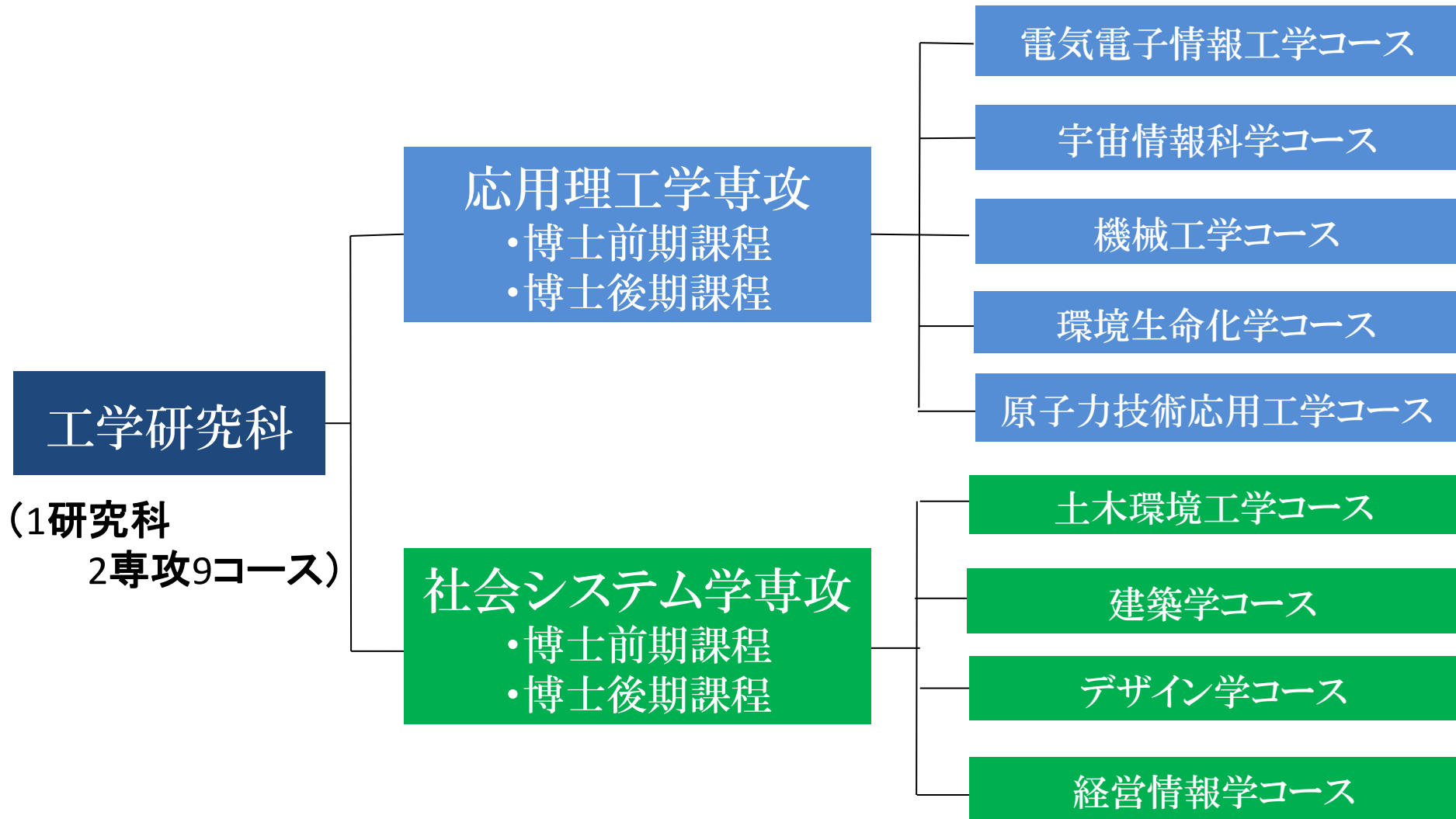


注) 平成26年度認証評価受審時の学部・
学科構成は、1学部 1機構 8学科

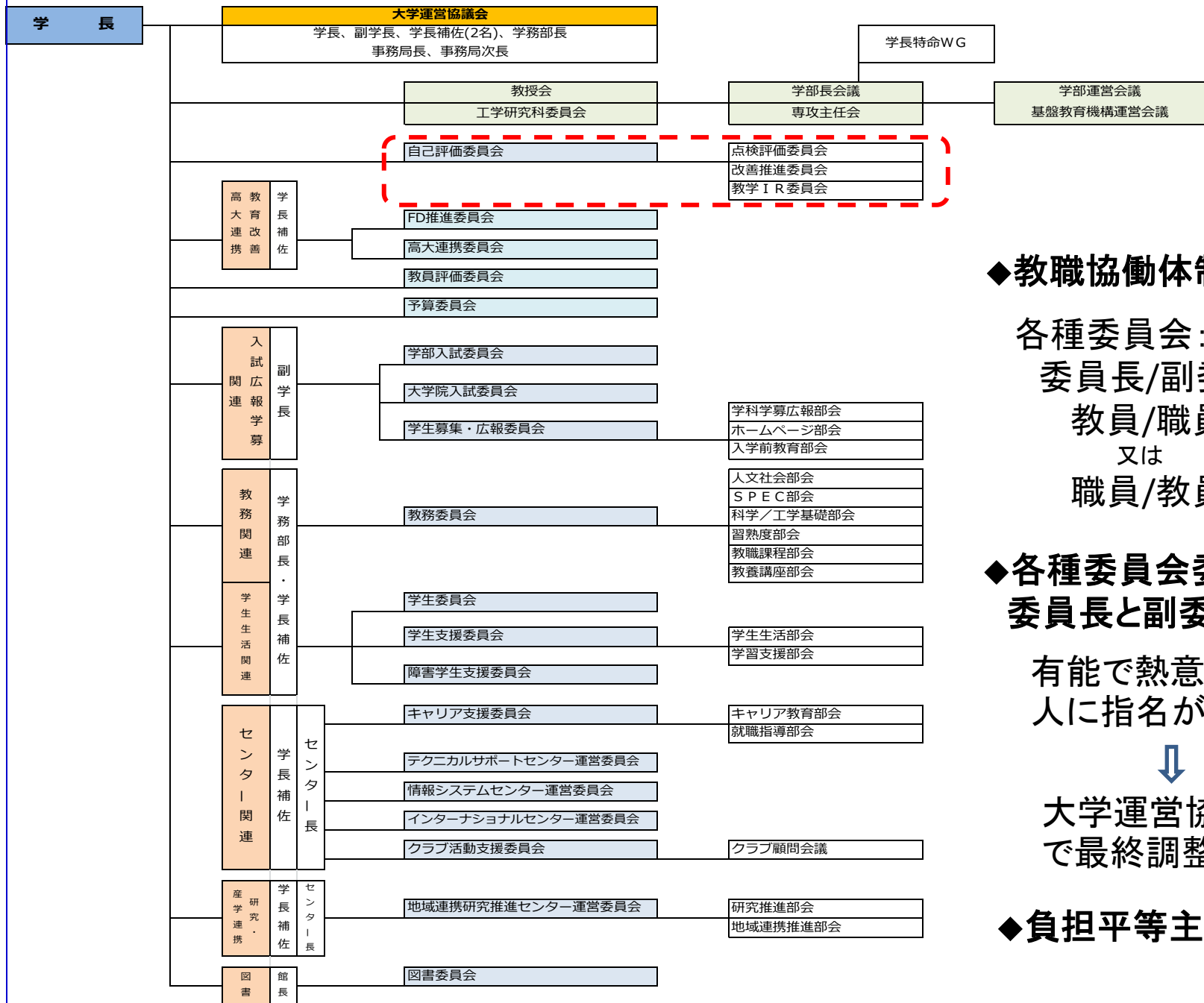




福井工業大学大学院工学研究科の専攻・コース



大学の管理運営組織



◆教職協働体制

各種委員会：
委員長/副委員長
教員/職員
又は
職員/教員

◆各種委員会委員は 委員長と副委員長が指名

有能で熱意のある
人に指名が集中

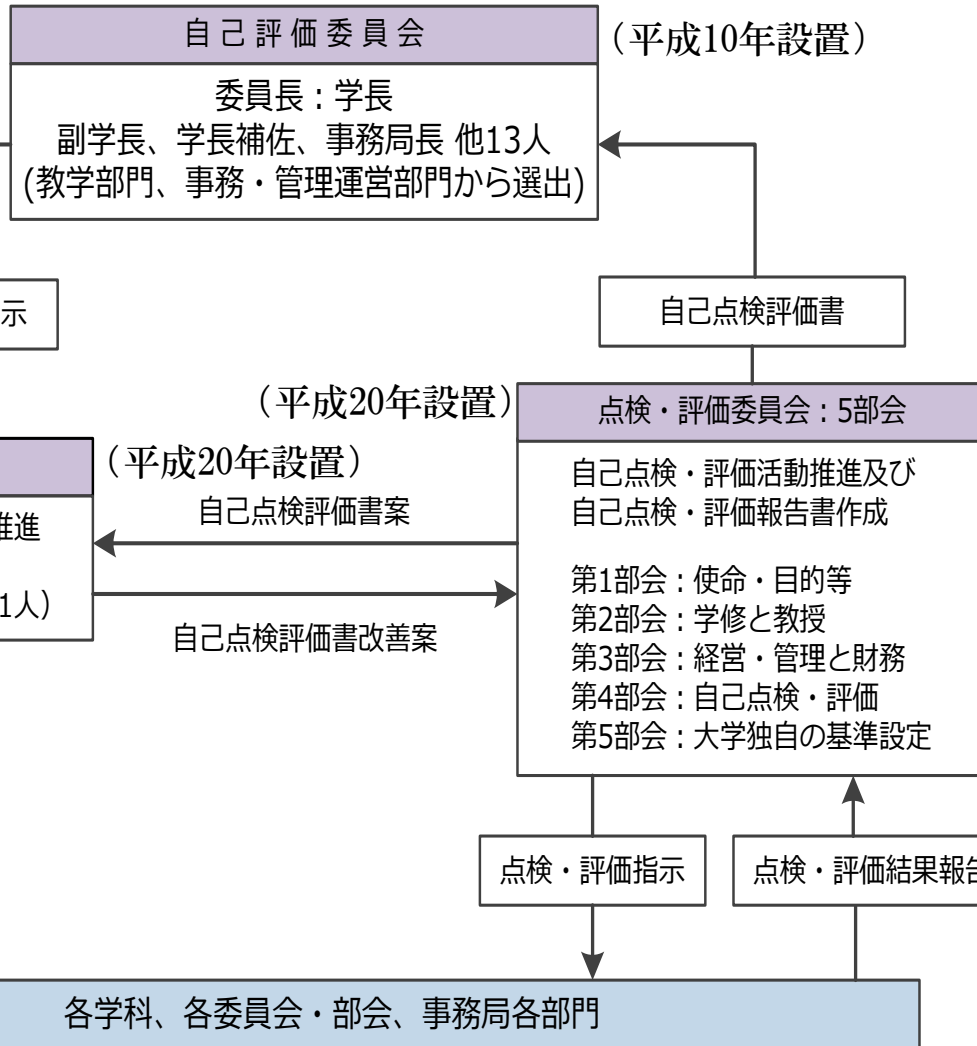


大学運営協議会
で最終調整

◆負担平等主義を撤廃

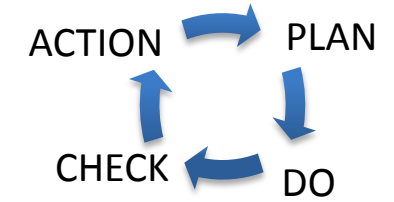


自己点検・評価の体制



・「自己評価委員会」が強いリーダーシップ発揮

・「点検・評価委員会」、「改善推進委員会」に強い権限付与



自己点検・評価のPDCAサイクルが適正、効果的に機能しているかチェックする体制を構築



第一期受審から第二期受審までの間の自己点検評価活動




- 平成19年： 日本高等教育評価機構大学機関別認証評価受審
- 平成20年： 「認定」判定、「参考意見」12件、「優れた点」22件、「改善を要する点」なし
「改善推進委員会」主導により、「参考意見」を受け改善への取り組み始動
「点検・評価委員会」主導により、点検・評価活動継続
(基礎資料及び根拠資料の更なる充実と恒常的アップデート)
- 平成22年： 「参考意見」に基づく改善達成状況を理事会に報告
- 平成23年： 自己点検中間報告書(232ページ)(教学部門)完成
- 平成24年： 自己点検中間報告書(130ページ)(管理運営部門)完成
- 平成25年： 「点検・評価委員会」主導により第二期認証評価受審準備開始
中間報告書を基に自己点検評価書(案)及びデータ編(平成25年度版)作成
- 平成26年： 自己点検評価書及びデータ編完成、日本高等教育評価機構に提出(6月)
実地調査(10月)
- 平成27年： 「適合」判定(3月)





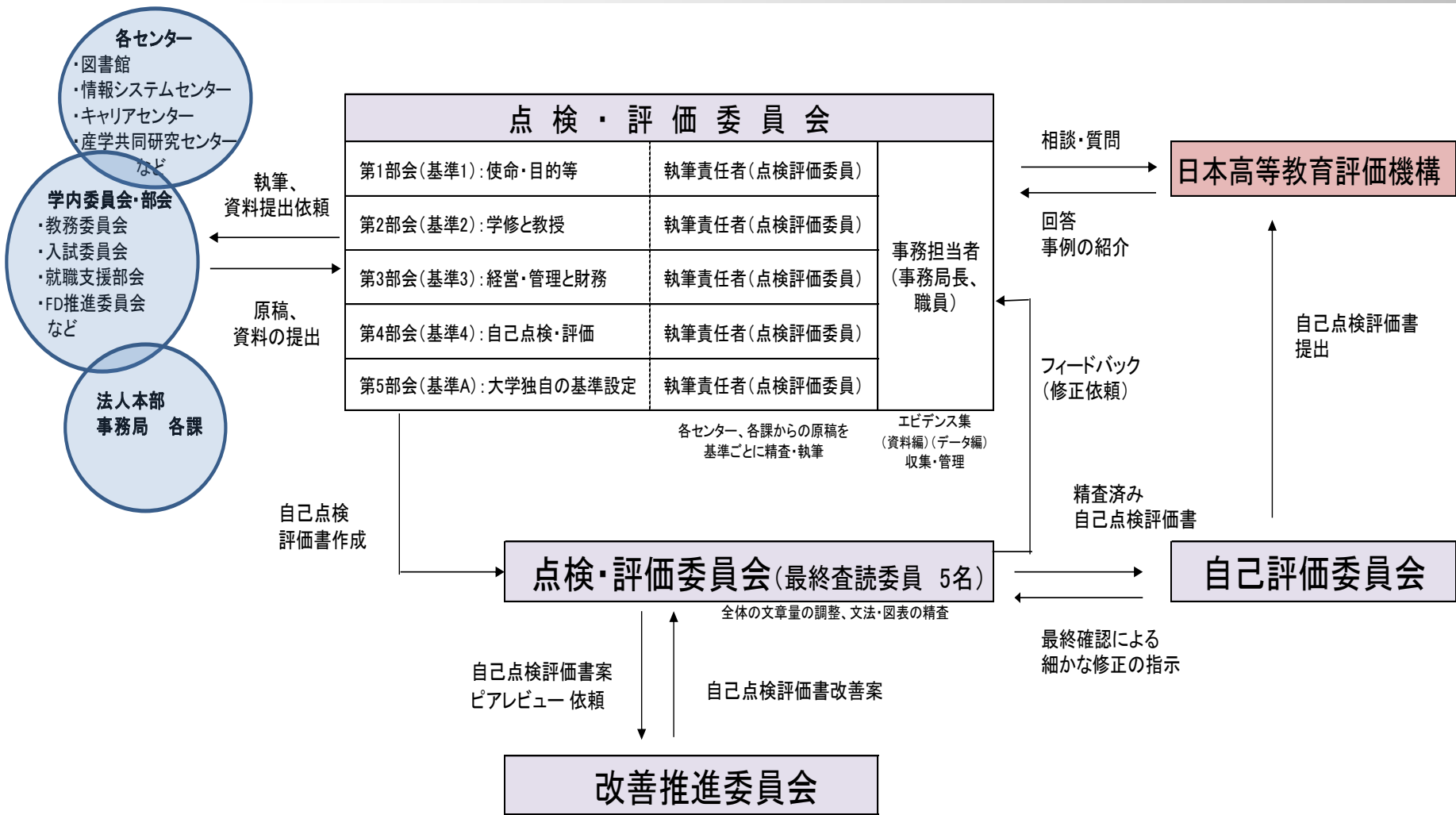
大学独自基準(基準A)の選定

【定義】 時代の変化と社会のニーズに応じた特色

- **徹底した学生支援** 学習支援、学生生活支援、
キャリア(就職・資格取得)支援  **<基準2>
と重複**
- **独自プログラムによる実践的な英語教育**
グローバル化社会で活躍できる技術者の養成
SPEC(Special Program for English Communication)  **実施間もない
取組み**
- **地域連携・社会貢献活動**
地方自治体との相互連携協定
知的・物的資源の地域社会への提供
工学の「知」を結集した各種事業
市民ふれあい講座、科学実験キャラバン(教職員・学生)
FUT福井城郭研究所の活動 など  **独自基準として
決定
<基準A>**



認証評価受審のための「自己点検評価書」作成の流れ





実地調査に向けての準備

「自己点検評価報告書」提出後の作業(7月～10月)

◆「自己点検評価報告書」補足資料の作成

評価書冊子は100ページ以内の制限により、説明が足りない点について
詳細な説明や補足資料を作成

◆書面質問対応WGを編成

夏季休業期間中の教職員の連絡体制を構築

◆想定質問集、回答集の作成

面談時に想定される想定質問集を基準ごとに作成



自己点検評価報告書の徹底的精査のために有益
教職員の共通認識形成(意思統一)のために極めて有益

◆評価機構との密なコミュニケーション

実地調査における些細な疑問についても適宜質問・相談を行った



評価機構からの的確かつ迅速な回答により準備態勢は万全に



今後の自己点検・評価活動に向けて

- エビデンス資料、根拠資料等データの一元化
(→大学IR機能強化)
- 点検・評価担当の主力教職員のもつノウハウの継承
と共有化
- 自己点検・評価活動の更なる恒常化
- 自己点検・評価書中間報告書作成間隔の短縮
- 点検・評価担当教職員とその他の教職員との間の
意識のずれ(温度差)の最小化
- 教職協働の更なる深化



福井工業大学の事例報告

ご清聴ありがとうございました。

学長 森島 洋太郎

